

平成 30 年度第 3 回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

| | |
|------|--|
| 日 時 | 平成 31 年 3 月 28 日 (木) 15 時 00 分～16 時 20 分 |
| 場 所 | 小牧市役所 本庁舎 4 階 402 会議室 |
| 出席者 | <p>【委員】(名簿順・敬称略)</p> <p>浅井 真嗣 小牧市医師会 在宅医療推進委員会委員長 磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター 高木 康司 小牧市歯科医師会 浅井 宏昭 小牧市薬剤師会 芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院院長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長兼患者支援センターセンター長 渡邊 紘章 小牧市民病院緩和ケアセンター部長 三谷 敏江 小牧市民病院患者支援センター入退院支援室室長 大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長 岡 良伸 小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 大橋 弘育 小牧市リハビリテーション連絡会会長 川合 直充 愛知県春日井保健所 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課長 尾崎 雅代 小牧地域包括支援センター 伊藤 京子 介護保険課長 西島 宏之 保健センター所長 江口 幸全 地域包括ケア推進課長</p> <p>【欠席委員】</p> <p>山本 格史 長寿・障がい福祉課長</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 岩下 貴洋 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係 長谷川えい子 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p> |
| 傍聴者 | 0名 |
| 配付資料 | <p>次第</p> <p>資料 1：平成 30 年度 事業報告</p> <p>資料 2：小牧市高齢者福祉医療戦略プログラム進捗報告シート</p> <p>資料 3：平成 31 年度 事業計画</p> |

主な内容

| |
|--|
| <p>1 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成 30 年度の事業報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料 1、2 を用いて、江口委員より事業報告。 磯村委員より、事業報告。 |
|--|

大橋委員)

- ・ 自分の理解不足かもしれないが、先ほど駐車場のマッチングを「こまきつながるくん」で行うとの説明であったが、具体的にどういうことか。

江口委員)

- ・ 春日井市が、先進的に高蔵寺ニュータウンをモデルに試験的に開始し、本年度から全市に広げている事業になるが、訪問などで駐車場が無いために困っている事業者と、駐車場を提供しても良いという地域住民、事業所をシステム上でマッチングをかけ、利用できる環境を整備するというハートフルパーキング事業がある。
- ・ 現在、こういったシステムを小牧市においても導入できないか検討を進めている中で、「こまきつながるくん」の医療・介護マップを活用したシステムを構築していこうとするものである。

大橋委員)

- ・ システム開発は分かるが、実際、貸しても良いという方はいるのか。

江口委員)

- ・ その部分については、今後の働きかけ次第であり、確保できるよう努めたい。
- ・ 実際に、春日井市の担当者のお話では、高蔵寺ニュータウンの住民には提供者がいたようだが、他地区では、事業所が多いと聞いている。

浅井会長)

- ・ 駐車場に関しては、皆さんもかなりお困りの方が多い。
- ・ 僕も訪問診療等をやっている、困ることがあり、少しでもいい方向に進むと良い。

芥川委員)

- ・ 副科紹介マニュアルが作成されているが、閲覧できるのか。

浅井会長)

- ・ サポートセンターに問い合わせただけであれば、見ることができる。

芥川委員)

- ・ サポートセンターにあるのは分かるが、一般の開業医の方がマニュアルを閲覧することはできるのか。

浅井会長)

- ・ 現状としては、正直、まだまだ周知がされておらず、サポートセンターに連絡をいただければ、ファクスで連絡することになっている。
- ・ 現時点では、一般の開業医に配っておらず、何かお願いしたいということがあれば、サポートセンターに連絡をいただく形で進めている。

磯村委員)

- ・ 公開をしたほうが良いということか。

芥川委員)

- ・ 先日、当院から耳鼻科にお願いしたいケースがあり、耳鼻科の先生が、そういうシステムを理解していない状況があった。

浅井会長)

- ・ 今のところは、サポートセンターを中心に集約して、情報を発信していくという形で進めている。
- ・ 現状では、眼科、耳鼻科、まだまだ弱いのが、精神科や婦人科にも広がってきている。
- ・ 他の科にも動いてほしいところがあるが、なかなか核になり、やってくださる先生がいないところもあり、課題が多い。
- ・ 今後に向けては、皆さんの意見を含め、検討をしていく必要があると考える。何か良い案が

あったら、お願いしたい。

浅井会長)

- ・ 他の部署との連携について、ケアマネの状況はどうか。

大野副会長)

- ・ 全然、今の状況でいいとは思ってはいないが、ケアマネの会としては、来年度、事例検討会をやっていきたいと考えている。
- ・ うちの会が設立して来年度で20年目になる。
- ・ このように長い歴史になる中で、もう一度ケアマネとしての役割や自分たちのいわゆるケアプランといったところの基本をもう一度しっかり勉強していきたくていったところで、少人数の事例検討会をもう一回しっかりやっていこうといった流れは、来年度はしっかりできてはいるが、その辺の連携といったところになると、他に任せてしまっているところがある。
- ・ もう一つ、手前どもの事業所で、小規模多機能型居宅介護の事業所をやっているが、その利用者と一緒に、地域のサロン活動にお邪魔し、一緒に時間を過ごすといったことも、今年度から少しずつやっている。
- ・ そうすることによって、事業所自体、近隣の方々との接触があるようでないのだが、そういったサロン活動にお邪魔させていただくと、意外と話が弾むといえますか、普通に溶け込んで話ができる。
- ・ 地域密着型サービスであるので、近隣の方々と交流を持つということはとても大切なことではないかということと、施設といえますか、そういう地域密着型、小規模多機能型においても、こういった在宅だったり、そういった方との交流をしていかないといけないのではないかと考えている。
- ・ 何かあったとき駆け込むというか、何か心配事があったら、あそこに行けばいいというような、そんな関係になっていくと、地域密着型サービスの施設として、とても良いのではないかと考えており、来年度以降も、やっていきたくて思っている。

浅井会長)

- ・ 「こまきつながるくん」について、個人として、活用している方は、どの程度いるか。

(約半数の方が挙手)

- ・ 実際、確かに便利は便利である。
- ・ 自分としては、何とか、もう少し進めていきたくて思っており、皆さんの知恵も借りたいと思っている。
- ・ 市の方でも、いろいろと考えてくれている。
- ・ 先ほど、説明があったように、医療・介護マップを作成して公開するについては、つながるくんに登録していないと実際、載らないという状況になっていく。
- ・ 登録率を更に伸ばしていくため、何かいい方法があれば、皆さんからちょっとお知恵をいただきたいと思っている。
- ・ 実際、今、手を挙げなかった方に、なぜ、使っていないのか、教えてほしい。

高木委員)

- ・ 歯科医院だと登録は10箇所には達しない程度だと思う。
- ・ 本当は、活用する、しないに関わらず、全会員で登録していきたくて思っているが、なかなか全員そろそろ機会というか、そこまで至っていない状況にある。

浅井会長)

- ・ 医師会も全く同じ状況である。
- ・ せめて登録だけでもやらないことには、何も話にならないと思っている。
- ・ 浅井委員のところはどうか。

浅井（宏）委員）

- ・ 正直、出来ていない。まだ、周知の部分が不足しているように感じる。

浅井会長）

- ・ 個人的には、今後については、「こまきつながるくん」を使って情報を流していく方向にしていき、登録し、活用しないと情報が入らないという状況をつくり出してしまふことも考えている。
- ・ これは医師会の理事には言っている。
- ・ このような形で進めることについて、リスクーだという意見がないのであれば、これから積極的に提案したいと思っている。
- ・ それから、患者情報の共有ということで、今、ケアマネジャーの中で、どの程度、活用されているのか。
- ・ 私の印象だと、積極的な方と全然そうでない方と、そういう感じに分かれているような気がするが、何か情報は入っているか。

田中委員）

- ・ 今、「こまきつながるくん」の活用や連携シートの活用という部分でアンケートを行っている。
- ・ 集計中ではあるが、年齢とか経験年数の長いの方が、そういう連携については意識が高く、そういう方ほど、つながるくんの利用や連携シートを活用しているようである。

浅井会長）

- ・ 年齢を重ねているからできないというものではないと思う。
- ・ ツールとして難しいものではないし、自分は、1日2回しか見ないが、5分程度で何とかなっている。
- ・ 何とかこれで積極的にやってみたいとは思っている。

田中委員）

- ・ サービス事業者連絡会としては、制度的な文書などについて、切りかえたいと思っているが、登録状況がまだまだ十分でないので、ぜひ登録してもらい、全部電子的な伝達ができると思う。

江口委員）

- ・ 「こまきつながるくん」については、市民向けに情報発信のツールとしても活用したいと考えている。
- ・ また、登録率の向上については、市としても課題と考えており、5月8日に、再度、事業者の皆様への説明会をさせていただくので、ぜひ、出席していただく中で登録のほうを広げていければというふうに思っている。

事務局）

- ・ 午後と夜2回に分けて御案内をさせていただき、こういった形で患者情報をつながるくんの中で連携しているといった事例紹介など、具体的な内容を含めた説明会をさせていただくと、あわせて登録の仕方等の説明も実施したいと考えている。

江口委員）

- ・ 報告であるが、昨日、酸素濃縮器を製造、販売されている日本特殊陶業(株)から、濃縮器の提供を受けるといふ協定を締結し、市内の第1老人福祉センターと第2老人福祉センターに配備させていただき、災害に備えることになった。
- ・ 今後については、患者さんのQOLの向上等に向けて、日本特殊陶業(株)とも連携しながら動きのほうをつけていきたいと思っている。
- ・ 認知症施策として、来年度、VRを活用し、認知症の患者さんの体験会を予算化し、夏に開催を予定している。

- ・ 機器の都合もあり、定員を設ける必要があり、そういった催しを予定しているというのだけ報告させていただく。

(2) 平成 31 年度の事業計画について

- ・ 資料 3 を用いて、事務局より事業計画の説明。
- ・ 磯村委員より、事業計画の説明。

渡邊委員)

- ・ わた史ノートについて、市出前講座もかなり熱心にやっていただき、認知度も少し上がってきているので、取り組みとしては大分進んできていると思っている。
- ・ 一方で、ACP は、国の流れとしてもかなり言葉も広まってきていて、各市町村で ACP が進んできているのだが、小牧市の場合、わた史ノートが先行し、地域向けに進んでいるというのは他の自治体にはない状況であり、それはある意味、先駆的だと考える。
- ・ ただ、ACP について、進め方を間違えると、わた史ノートと混同されて、そこが重なり合う部分もあると思うのだが、全く違う部分もあり、そこを啓発する側が意識し、使い分けていく必要があると考える。
- ・ 恐らく医療・介護者側も混乱する可能性が高く、今、透析の意思決定支援のことが問題になっているが、まさにああいうのも、ただ意思決定支援だけを求めるという状況が生んでいる部分もあり、そういうことがないようにしなければならない。
- ・ 多分、他の自治体も真似ができないところで、むしろ先駆的な部分である。
- ・ ACP だけが進んだり、エンドオブライフケアだけが進むのはちょっと危ないと思っている。ぜひその辺りを意識して施策をしてもらいたいなと考える。

浅井会長)

- ・ 具体的に、どのように進めるとよいと考えるか。例えば、市民への啓発より先に、医療・介護の専門家を集めて、何かやったほうがいいのか。

渡邊委員)

- ・ ACP 自体を市民に対し、啓発する必要があるかどうか、若干疑問である。
- ・ ACP については、恐らく医療・介護の関係者と接点を持ったときに、より具体的な中身の話し合いが先行しつつあるが、そこから始まってしまうと、単純に具合が悪くなったときに延命処置をするのか、しないのかだけの話になってしまう。
- ・ その人の、その手前の生活の部分の掘り下げがあまりないまま進んでしまう可能性があるのも、医療・介護関係者がそのことを意識してやらないと、ただ単純に事前指示書、いわゆるリビング・ウィルをとるような形だけになってしまうというのが一番心配しているところである。
- ・ まず医療・介護の関係者に認識してもらい、ACP の本質の部分、でも、本質の部分は、どちらかというとなた史ノートで、その人個人に焦点を当てて価値観を見ているようなところが実は本質で、それを経て ACP がスタートするというような多分概念だと思う。
- ・ 市民にはむしろ、民生委員とかに講義を市と一緒にしたように、わた史ノートを中心に啓発をし、その次の段階として医療現場とか介護現場に入っていくと、それを基にした自分がどうしたらいいかという、より具体的な意思決定を求められる時代になっているし、それを話し合うことは大事ですよという、その流れ、全体像の流れがやっぱりすごい大事だと思う。
- ・ 市民には、単純に医療現場で ACP というのが始まりますということだけ言うと、医療・介護現場に到着した段階で用意ドンというふうにならざる可能性が高いのかなというふうになっているので、両方向でやっていく必要があり、重きを置く部分は違うのが大事ではないかと考える。
- ・ 国の施策として、ACP の愛称を人生会議と決めたように、一般住民に対し、こういうことがス

ターゲットしますよということの合図はしている。

- だから、今のまま行くと、ACPという言葉を知らずに一般の人が医療とか介護を利用すると、これまでの医療とか介護の関わり方とは異なる可能性があり、危険である。
- わた史ノートの説明をする際に、この後、ACPという人生会議とか、そういったことが医療・介護を利用するときに説明を受けることがありますよという比率の問題で、もう一方で、ACPのことを説明する際には、小牧市には、わた史ノートというのがある、ACPの手前に、わた史ノートがあるのだというように、ACPだけ話をするとか、わた史ノートだけ話をするよりは、その流れがわかるように比率を変えながら、実施していく必要がある。
- そのため、市が誘導的にやるのであれば、わた史ノート中心として、ACPについても最後につけておくとかというような、ちょっと比率の問題が必要ではないかと考える。

浅井会長)

- また具体的に私もいろいろ考えます。
- 渡邊委員には、引き続き、ご協力いただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(3) その他

- 参考資料1、2を用いて、伊藤委員、江口委員より地域ケア会議に関する取組みと、それに伴う本協議会の要綱改正について説明。
- 今回の協議会を持って、退任される委員の紹介及びご挨拶。
- 小牧市歯科医師会の高木委員、愛知県春日井保健所の川合委員、小牧地域包括支援センターの尾崎委員。

【閉会】

【次回会議開催予定】

- 平成31年7月11日（木）午後3時から 小牧市役所